



積雪期中央分水嶺(岡山・鳥取)

Vol.1 2013年分

踏査 ゆきんこ隊

協賛 創立20周年記念事業

岡山県山岳連盟 みつがしわ山の会



はじめに

昨年冬（2012年）は岡山県内の雪山稜線繋ぎ、特に花知ヶ山界限の稜線を縦横無尽に繋いで楽しんだ。これらは延べ19日にもなった。そして、次は岡山・鳥取の積雪期の県境稜線に挑戦してみようと夢は広がった。ひと冬中にどれだけとか、目標は課さずに、気楽に楽しんでみることにする。

これ迄にも部分的には何人、何組も踏破されているが、全踏破は（社）日本山岳会創立100周年記念事業として纏められた中央分水嶺踏査報告によれば、この区間は同山陰支部会員が手分けして無雪期に成し遂げられています。

岡山県境に限るとはいえ、積雪期の全踏破はそれなりに意味があるものと勝手なロマンを求めることにしました。比較的低山の山歩きなので雪との格闘を好む人なら誰でも参加出来るし、それなりに登山技術や山への心構えを高揚させてくれるものと考えます。みつがしわ山の会の構成年齢からして厳冬期の高山への挑戦は出来なくとも、単なる健康志向のクラブではなく、山を愛し、山を想い、山を考える会でありたいと願うものです。

なお、初期のタイトルは岡山鳥取県境歩き（中央分水嶺）としていたが、一部両者が隔たることに気付き、積雪期中央分水嶺（岡山・鳥取）に変更しました。云うまでも無く、中央分水嶺とはその降雨が日本海に流れるのか、太平洋（瀬戸内海）に注ぐのかを分水する稜線で、北海道から九州まで一本で繋がっています。

なお本文中に峠と峠（タワ）の文字が出て来ますが、岡山地方では峠の同義語として峠を用い、峠もトウゲと読んだりタワと読んだり入り乱れているのが実情です。

平成25年4月

ゆきんこ隊 隊長 船越 仁

（岡山県山岳連盟 みつがしわ山の会副会長）

ゆきんこ隊

隊長 船越 仁（14）

副隊長 角原 覚（14）

隊員

角原鶴子（13） 赤木貴久子（11） 佐々木順栄（8）

丹治千束（2） 小倉真須美（1） 西崎博子（1）

（以上みつがしわ山の会）

妹尾東祐（4） （岡山山の会）

佐々木靖昌（4） （所属なし）

岡田至弘（1） （みまさか山の会）

（ ）数字は参加回数（全14回）

連絡先：shipover5353@yahoo.co.jp

URL：<http://funachan.web.fc2.com/>

第1回 木谷峠～4等三角点田辺～下山点コル 平成24年12月18日(火) 小雪

行程

県道11号木谷峠 K車 9:17-P737m 10:45-4等三角点田辺 11:31-11:55-鞍部昼食
12:20-12:39-P1064m 13:23-下山点コル 15:05-F車 15:51

隊員

船越 仁 角原 覚 妹尾東祐 角原鶴子



歩くにあたり、GPSを頼りにせず(持っていない負け惜しみかな?)、地図とコンパスと勘を頼りに遊んでみようと思います。これまでの経験でも、間違えば間違ったで、それが格別な味わいとなるものです。初回は最西の新見市神郷から始める。北に向かうにつれ小雨模様になりワイパーを付ける。足立から県道12号を西に入り、三室ダムを通り地方道を三室集落の奥に着く。三国山登山口に通ずる林道にF車をデポし、来た地方道をそのまま奥に進む。神郷スキー場入口前を抜け、県道11号を左折し県境の木谷峠に着いた。

歩きはじめると小雨は次第にみぞれから霰に変わった。落ち葉と混じった雪で急斜面は滑り易い。稜線には県の境界標識が点々とある。往年を偲ばせる土塁や

危ない鉄条網(1ヶ所のみ)も残っていた。

熊か? 雪の上に足跡が前方に延びている。笛を吹くやら、大声を上げる。4等三角点(点名田辺)1031.5mが顔を出している。これが県境最西の三角点である。何故か神郷三国山には無いのです。所がここで不覚にも進路を違え、25分のロスをしてしまった。そしてその後も小尾根に紛れ込んだりした。

3時にコルに下りた。予定の三国山へは届かなかったが今日は此処までとし、折れ木にオレンジテープを付ける。あと1ピーク越えれば三国山登山道に合流する筈だが無理することは無い。荒れた林道を下り三国山登山口への林道分岐に着いた。

第2回 神郷三国山～P1045～下山点コル

平成24年12月24日(月)晴

行程

P8:35-登山口 9:13-県境尾根出合 10:03-10:15 三国山 1129m 10:25-尾根出合
10:39-P1045 標高点 10:58-下山コル 11:08-11:52 駐車地点

隊員

船越 仁 角原 覚 赤木貴久子 佐々木順栄 角原鶴子 佐々木靖昌



今朝は大寒波襲来です。新見からの雪面はカリカリです。林道工事の人達は今日も作業中だ。その脇に駐車させて頂く。先日(第1回)のクマ?の足跡が気になり尋ねて見た。やはりこの辺りには熊はいるらしい。三国山に向かう林道を奥に進む。樹氷の稜線に出た。

さすがに稜線には風があり、急に冷気が頬に伝わってくる。右手の直ぐ向こうは真っ白な道後山です。

樹氷の三国山で集合写真を撮り、前回の下山地点に到着し同じ林道を下ります。林道と云ってもこのヤブ漕ぎが結構大変なのです。棘が沢山付いていてバリバリと絡みついてくる。



第3回 木谷峠～妙見山～県道

平成24年12月24日(月)晴

行程

木谷峠 P13 : 03 - 妙見山 724.8m 14 : 27 - NV 点 14 : 57 - 15 : 15 県道 11 号 G

隊員

船越 仁 角原 覚 赤木貴久子 佐々木順栄 角原鶴子 佐々木靖昌



三国山から下山し、三室の駐車場所で昼食をとった後、引き続き午後の部です。途中の大原集落にS車をデポし、木谷峠の鳥取県側の路側に駐車して歩き始めた。

岡山県側から北に入る。地形図を見ても分かるように顕著な尾根

は無く、植林の小山の点在で見通しは全く効かない。その上、あるだろう筈の県境標識は雪の下。協議を重ねて感を頼りに少しずつ東に振ります。そして土塁に沿って進む。所が、それが県境線にあるものとの思い込みは外れでした。樹間から見える右手の妙見山と思われる山の位置から、鳥取県内に入りこんでいるのでは？との協議で、?1ポイントに引き返しました。そこからの県境ライン土塁は倒木に遮られ非常に歩き難い。何とか妙見山の登りにさしかかる。等高線から分かるように傾斜が非常にきつい。ジグザグに登る。凍った斜面にキックステップ、痛めている私の左足は頼りにならず、ジグザグ左向き（左足が下部）では特に苦しい。何とか3等三角点（点名桐の木谷）の妙見山724.8mに到着、いつものオレンジテープを付けました。

南東への下りが顕著に南に転換した南下点コーナーに、オレンジテープを付けた（NV点）。このNV点から直ぐの所に直角に東転する?2の県境ラインがある筈だ。だが全く不明、時間が時間なので今日は県道に出てもいい。結局東転点は見つからず、真っ直ぐお墓に出ってしまった。そこはデポ車と木谷峠との中間地点でした。

これから先も県境尾根が顕著ではない箇所が沢山ありそうです。GPSなら万全とは行かぬかもしれないが、地形図、コンパスと併せて使えば迷い踏み込みに早目に気付くでしょう。このままだと進むより戻るのに時間がかかる。来年からは併用することに見ますか。

第4回 木谷～4等三角点福田～鷹ノ巣山

平成25年1月6日(日)晴

行程

木谷 S 8:43 - 県境到着 9:10 - ?点 9:15 - 4等三角点(点名福田) 611.9m 11:33 - 峠 11:43 - 鷹ノ巣山 13:11 - 道路 G 14:06

隊員

船越 仁 角原 覚 妹尾東祐 赤木貴久子 角原鶴子 佐々木靖昌



今年初の県境歩きです。県道8号の谷田峠にK車をデポして前回の終点に向かった。路面は圧雪です。

この年末年始は新たに入手したGPSの取り扱いに随分な時間を費やした。角原

副隊長のガーミンはアウトドア地図が未着、私のNV-Uは途中電池切れとなってしまう、上記トラックは使い慣れた佐々木隊員のガーミンとなりました。

前回のオレンジNV点に到着し、100m程南に引き返す。この辺(?点)に東転する県境線がある筈だ。上から見下ろしても分からないが、樹間の下の方に白い部分が見える気がする。GPSを頼りに決断して急傾斜を20m程下る。前回不明で素通りしていた低い県境尾根に降り着いた。この辺りは県境ライン(背骨)よりも、張り出した肋骨の方が顕著な尾根なのです。上のGPSトラックに引き返し箇所が4~5ヶ所あるが、最初を除いて全てその肋骨に踏み込んだ迷い尾根なのです。つい踏み込んでしまうのだが、直ぐに引き返すことが出来るのがGPSの強みですね。分かっているけど同じ失敗を繰り返す程、県境ラインは判り辛いのです。

無名峠に下りてきた。続けて道なき道を登ります。雪を退けて鷹ノ巣山の図根点を確認した後平地に下りた。雪の下の県境線は非常にわかり辛いですが、此処は左に傾斜している。県境=分水嶺なので鳥取県側に居ることが分ります。

林道に出た。今日は此処がゴールです。

車をデポした谷田峠も出発の木谷もどちらも遠い。道路を歩いて谷田峠に向かう。旧野原スキー場を抜け、圧雪道路をJR上石見駅に向けて歩いていると、車が追いかけて来た。妹尾隊員が落とした手袋片手を拾い、追いかけてくれたのです。その上、更に谷田峠まで角原副隊長を乗せて下さいました。人間万事塞翁が馬、その通りのことが現実に起きたのです。私たちも見習い、誰にも親切にしようとして心新たにした冷気の中、新春の爽やかな一日だった。